

平成28年度に取り組んだ献血推進事業について

【鹿児島県】「平成28年度九州ブロック学生献血推進協議会統一イベント」

【1.目的】

九州各県で活動する学生献血推進協議会の活動発表や献血の基礎知識、基準などクイズ形式で楽しく学んでいただくことにより、将来の血液事業を担う若年層に献血への関心と理解を深めていただき、安定的かつ持続的な献血協力者を確保すること。

【2.内容】県庁表敬訪問、九州ブロック学生献血推進協議会研修会、九州ブロック学生献血推進協議会統一イベント等

【3.実施日・場所】平成28年9月10日(木)鹿児島市民文化ホール

【4.対象者】応募者(若年層中心)

【5.実施手順】 ①開催日時実施決定 ②実行委員会開催・内容検討 ③共催・後援団体への申請 ④広報・募集開始 ⑤当選通知案内(メール) ⑥イベント当日

【6.実施に際して苦労したこと】

・プログラム構成の調整が難しかった。応募者の確保。

【7.予算額】約7,000,000円(九州ブロック血液センター予算)

【8.来場者】676名(関係者含む)

【9.効果(評価)】

・来場者の献血協力:イベント後【9/15(木)~10/31(月)】
受付47名・採血34名

・学生献血推進協議会メンバーの意識が向上した。
特に県外のメンバーとの連携が強まった。

【10.改善点、11.今後の課題】

・学生献血推進協議会メンバーの活動のPR方法
・若年層の初回者献血者の確保



平成28年度に取り組んだ献血推進事業について

【鹿児島県】「キッズ献血」

【1.目的】

血液製剤の国内自給及び安定的な供給体制を維持するため、近い将来献血可能年齢に達する若年層(小学4～6年生)に対し、いのちや血液・献血についての重要性や血液センターの役割について理解を深めてもらう。

【2.内容】いのちや血液・献血についての学習、献血模擬体験、施設見学、アンケート記入、記念撮影

【3.実施日・場所】平成28年7月22日(金)～24日(日)計6回
鹿児島県赤十字会館

【4.対象者】小学4～6年生

【5.実施手順】 ①開催日時実施決定 ②実行委員会開催
③関係団体(教育委員会等)後援申請 ④広報・募集開始
(学校訪問等) ⑤応募者への連絡・調整 ⑥イベント当日

【6.実施に際して苦労したこと】

・参加者の確保(曜日の偏り等)

【7.予算額】 300,000円

【8.来場者】小学生123名・保護者等156名

【9.効果(評価)】(アンケート結果から)

内容について:大変良かった&よかった(94.6%)

よかったこと(上位3つ):献血模擬体験、施設見学、けんけつのしくみ

【10.改善点(又は問題点又は反省点)】 広報

【11.今後の課題】内容の充実、参加者の確保



平成28年度に取り組んだ献血推進事業について

【鹿児島県】「学生献血推進協議会等ボランティア団体の活動について」

学生献血推進協議会

【1.目的】

各学内献血の献血推進活動の充実と思想普及活動の強化, 学生の自主的な献血推進活動の育成

【2.構成人数】

78人(大学, 専門学校生等により平成2年11月に結成。)

※H29.10.1現在

【3.昨年度の主な活動内容】

7月:「愛の血液助け合い運動」街頭キャンペーン,
「キッズ献血」への応援

9月:九州ブロック学生献血推進協議会統一イベント

10月:ハロウィン献血, 宮崎県学生献血推進協議会との合同研修

12月:全国学生クリスマス献血キャンペーン

2月:バレンタイン献血

3月:ホワイトデー献血



～献血ありがとう～いのちをつなぐ友の会

【1.目的】

輸血の経験談等を, 献血セミナーで講演したり, 献血情報誌へ寄稿することで, 献血の重要性や命の大切さを直接的に訴える。

【2.構成人数】

29人(病気や怪我で輸血を受けたことがある患者やその家族により平成25年1月に結成。)

※H29.10.1現在

【3.昨年度の主な活動内容】

通年:献血情報誌(ABOネット)への寄稿(年2回発行)

9月:九州ブロック学生献血推進協議会
統一イベントでの講演



「献血ありがとう」

「この血液は、宮崎の方が献血して下さったものですね。」と優しく話される看護婦さんの声で、私は目が覚めました。数年前の秋、手術をしたときの事です。

回復室のベッドで横になり、下から見上げた輸血用血液製剤のバッグ。その一滴一滴が、窓から差し込む朝日に、キラキラを光り輝いて見えました。そして、それは神様が私にくれた魔法のプレゼントに思えました。献血は、会った事もない、多分これからも会う事のない方々から頂いたどんな物にも代えられない、善善のつまった最高の贈り物だと思います。私は、全ての方々に、「ありがとう」と言いたい気持ちでした。そして、感謝の想いと傷の痛みとが重なり、自然と涙がポロポロ出てきました。

今、おかげ様で多くの方々に支えられて、健康になりました。これからは、健康に感謝しながら、自分に出来る事から、少しずつ恩返しをしていけたらと思います。献血はできませんが、自分の輸血の経験を通して、献血の大切さや私のように献血で助かる命がたくさんあることを皆さんに伝えるお手伝いを協力しながらしていきたいです。

松田 遥子さん(鹿児島県)



平成29年度に実施予定の献血推進事業について

【鹿児島県】血液教育事業

【1.目的】

本事業は、将来にわたり若年層が安定的に血液需要を支えていくために、献血年齢に達する直前の**中学3年生に対して、学校薬剤師が講話等を通じて、血液に関する正しい知識や献血の重要性を教育**することを目的とする(昭和62年度から事業開始)。

【2.予定内容】

事業を県薬剤師会に委託する。

県薬剤師会は、会員の学校薬剤師を学校に派遣し、中学3年生の生徒に対して、パンフレットやDVD等を用いて、献血に関する講話をする。

【3.実施日・場所】通年，県内150校

【4.対象者】中学3年生

【5.昨年度実績】県内144校 11,784名

【6.実施手順】

①県 県薬剤師会に事業委託

②県薬剤師会 → 学校薬剤師を学校に派遣

学校薬剤師が講話実施 → 事業評価報告書を県に提出

③県 事業の評価

【7.予算額】1,193千円

【8.目標(効果)】

血液に関する正しい知識を身につけ、献血の重要性を理解してもらう。

【9.実施に向けた課題】

委託事業を継続するため、県薬剤師会と連携を図る。

